

和歌山大学  
クリエ映像制作プロジェクト 2009年度成果報告書  
作成者・代表 渡邊佳寛

<目標>

私たちは昨年度からスタートしたプロジェクトである。  
ドキュメント番組を制作・公開することにより、映像として情報を伝える。  
映像系コンテストへ出品し、評価を得る。  
また、積極的に新しいことへ取り組む。

<目的>

大学内には講演会や学校行事、実験など日々貴重なイベントが行われているが、それが効果的に広報されていないことに気づいた。言い換えれば、当事者たちだけのものになっていたといえる。そのイベントを知っていたとしても興味があるが、直接参加するかどうか迷っている人や授業や部活などの都合で参加できなかった人だけでなく、そのイベントに協力していただいた方々、大学外部の方(地域住民、OB や OG、保護者の方など)などにもきちんと知ってもらい機会を作らなければならないと考えた。  
そこで映像というメディアを使用し、このような貴重な事象を記録し、公開して息ことを目的としている。

<主な活動内容>

クリエの各活動を含む、大学内の事象に対してテーマを決め、短編のテレビ番組を制作する。  
「人に伝える」技術だけでなく、倫理も含めて研究していく。  
映像作りの大変さ、楽しさを学び、今日の情報社会の中の映像が持つ重要性を学びたい。

さらに付加価値として、ビデオの公開方法の工夫次第でクリエの広報活動にもつながり、知名度、さらには参加者の増大にも期待できると考えている。  
ただし、外部からの依頼だけで動く団体ではなく、あくまで自分たちで定めたテーマのもと番組を制作することを目的とする。

番組制作は、企画から取材、編集と様々な工程を経て完成する。一般にこれは得意分野をそれぞれ分業化することで効率化されているが、自分たちのプロジェクトは基本的に「番組制作に必要な全ての工程を自分たちで行う」ことを掲げている。  
カメラが好きだから撮影だけ、編集が得意だから編集だけ、という活動は行わない。これは、すべての工程に触れることによって番組制作の大変さを知り、番組に本当のメッセージを吹き込むことを学びたいからである。



写真 編集の様子(左)と取材時に使うカメラ(右)

## <具体的な活動>

### 各種番組編集活動

前期から取材を続けていた番組の編集作業を進める。一つの話題でも、コンテスト用と一般公開用の二つを制作する予定であったため、編集スタッフには負担をかけることになってしまったが、番組の権利関係上回避できなかった。

#### ・NHK杯全国大学放送コンテストへの参加

テレビドキュメンタリー部門2作品、テレビコマーシャル部門1作品、朗読部門1作品の合計3部門4作品を出品した。内朗読部門1作品は失格、テレビドキュメンタリー部門とテレビコマーシャル部門の2作品は予選落ち、そしてテレビドキュメンタリー部門1作品は見事本選出場を果たした。初出品で初本選出場は非常に価値のある評価であると考えている。「お客さんを取り戻せ～観光学部生の奮闘記～」が50本を越える作品の中から上位5本に選ばれたことになる。

この番組は和歌山大学観光学部に通うとある生徒の密着番組である。ゼミの先生の要望で参加することになったファッションショーに向けて試行錯誤する姿を描く。和歌山市内の商店街が活気を取り戻すために企画したこのファッションショー。普通は東京や大阪、神戸などで行われるものが、和歌山、しかも商店街である。

地元活性化という目標を背負い、不安と葛藤しながら日々練習を重ねる彼女の様子が評価されたようである。



写真 番組の一場面(タイトル)

#### ・缶サット甲子園2009の収録

日本宇宙少年団(YAC)などとの共同で秋田県能代市で開催された缶サット甲子園2009の収録活動を行った。今回の初挑戦はインターネット生中継である。放送ブースを作り、それと会場に多数設置したカメラとを接続。それぞれのスタッフと連絡を取り合いながらその場で映像・音声をそれぞれミキシング。テロップ(文字情報)も合成した。実況・解説を踏まえながらインターネットを使った動画配信を行った。もともと電源・インターネットの無い会場で、朝から夕方までほぼノンストップで配信できたことは評価できる。

また、前日夜に各出場チームに行ったインタビューを徹夜で編集、翌日の配信に間に合わせたことも記憶に新しい。



写真 実際に放送された映像(缶サット搭載カメラから)

#### ・水ロケットコンテストイベントの収録

日本宇宙少年団(YAC)と共同で長久手で開催された水ロケットコンテストの全国大会の収録に参加した。夏休みの缶サット甲子園の収録同様、収録と同時に映像・音声のミキシングを行い、インターネット回線を通じて全国へ生中継する試みを行った。

当プロジェクトから3名のスタッフが参加し、2名はカメラを、そして自身はミキシングをこなした。アップロード用の回線に問題があったことからノーマスというわけにはいかなかったが、3名共によく頑張った。

また、収録した映像を元に来年度用のプロモーションビデオの制作も行い、多方面で公開される予定である。



写真 ミキシングブース(左)と映像の合成に使うスイッチャ(右)

#### ・桐蔭高校創立130周年記念セレモニー収録・DVD作成

市内の公立高校である桐蔭高等学校が創立130周年を向かえることから記念セレモニーが開催された。入念な打ち合わせの上で会場内4箇所にカメラを設置し、それをその場でミキシングしながら収録を行った。時間の長い式典を後から編集するのは負担が大きいと考えたためである。その場でサブを特設し編集を行ってしまうことで、短時間でかつ効果的な記録が行えた。

そしてこの活動のもう一つの大きなポイントが、桐蔭高校の生徒と共同で収録を行ったことである。3名の生徒を和歌山大学に招き、実際の機材をセッティングした上で勉強会・練習会を行った。当プロジェクトはこれまでも様々な方々と共同で活動を行ってきたが、高校生と共に行うのはこれが初めてであった。



写真 収録の様子(左)と参加した高校生との集合写真(右)

・NHK「ぐるっと関西おひるまえ」などテレビ出演  
 制作とは直接関係無いが、NHKより取材を受けた。これはNHK和歌山放送局制作の「わかやまNEWSウェブ」だけでなく、大阪局制作で関西をネットしている「ぐるっと関西おひるまえ」でも放映された。実際にこの番組を視聴された方からの番組制作依頼も届いている。



写真 実際にNHKで放送された番組の様子

・JAいなみみなべの花弁栽培の取材



写真 JAいなみみなべでの収録活動の様子

- ・岩出市消防団の活動風景
- ・おもしろ科学まつりの取材
- ・和歌山市加太で開催されたハイブリッドロケットの発射実験の取材
- ・沖縄県への皆既日食の収録活動

このほかにも、大学で開講された映像制作系の授業の指導補助なども行った。権利的に

許諾の取れた番組については随時、動画共有サイトを通じて視聴できる環境を整えている。



写真 番組のアップロードに使うサイト(Youtube)

### <結果・成果>

それぞれ、番組という形で結果を導いている。それに加えて視聴者の方からのフィードバックもいただいているのでこれらを大切にし次の活動に続けて行きたい。そして、常に新しい活動を模索する団体であり続けるために、自分たちの活動の上限を先に決めてしまう前にイメージを描き現実化していきたい。

### <今後の課題・展望>

入学直後から今まで、手探りの状況ながら代表として活動しやすく勉強できる環境作りを目指してきた。そして自身もいよいよ次は3年生となり、活動のまとめにあたる時期になる。

ここで重要となってくるのが団体の引継ぎである。今までは番組の制作に全ての力を注いできたが、ここからはそれに加えて新スタッフの獲得や現存する後輩スタッフの教育である。編集機やカメラの使い方一つをとってもまだまだ余地があるように思える。

今までは、分からない点があれば私が解決策を模索していたが、今後後輩スタッフだけで解決しなければならない場面も出てくるように思える。

それを成功させるものがマニュアル作りなのか、勉強会の実施なのかはまだ分からないが、次期の活動ではより一層全員でお互いを高めあうことが出来る環境作りに努めたい。

### <感想>

新しい機材に囲まれての活動は自分にとって非常に新鮮であった。特にプロフェッショナル仕様のカムコーダの導入は番組の画質を引き上げるだけでなく、こだわった画作り、編集時間の縮小などを実現させることが出来る画期的なものであった。まだまだスタッフ側がこのような機材についていけない部分が見受けられるので、これは今後の活動を通して解消していきたい。

今回、前期より制作を進めていた「お客さんを取り戻せ～観光学部生の奮闘記～」というドキュメンタリーをイベントの主催者である神保さんという女性の方に見ていただく機会があった。後から聞いた話ではあるが、神保さんは最近、自分の目標が見えないという理由でファッションショーを開催することを躊躇っておられたそう。しかしこの番組を見ていただき、活躍される自分たちの姿を客観的に見ることにより活動を再開されたそう。

このように、全てがプラスの方向でないにせよ、番組を見られた方の気持ちがすこしでも動いたことは私たちの活動の最も根底の目標の一つ達成されたことを証明しているように思う。今後も番組を通じて視聴者の方に何らかの感動をもたらす活動を続けていきたい。